

## 脳神経内科のご案内

遅くなりましたが、あけましておめでとうございます。

汐田総合病院では、汐田脳血管センターを前身に特に脳血管障害については伝統的に力をいれています。当院の脳神経内科は、脳血管障害の急性期から回復期リハビリテーション、在宅医療まで継続した医療が特長です。今回は、当院脳神経内科で活躍中！日本神経学会認定神経内科専門医の中野渡医師へお話を伺いました。

### 中野渡雅樹先生にインタビュー

#### Q：医師・脳神経内科医を志したきっかけは

人間の身体の仕組み、特に脳の仕組みに興味があったため。人間のように高い情報処理能力を持った機械が自然発生してきたという事実には驚かされます。

#### Q：汐田総合病院の脳神経内科の強みは

当科では血栓回収療法等の血管内治療を行っていない分、診断に時間を割くことができるため、一通り検査を行っても原因がはっきりしない症状をお持ちの患者さんの診断が得意です。

#### Q：脳神経内科疾患を疑う症状・サインとは



当科で扱っている症状は、物忘れ、頭痛、めまい、しびれ、ふるえ、異常運動（体が勝手に動く）、運動麻痺（体が思うように動かさない）、筋肉の萎縮、立てない、歩行障害（うまく歩けない）、起立性低血圧（たちくらみ）などです。このような症状でお困りの方がいらっしゃいましたら、当科へご紹介頂けますとありがたく思います。

#### Q：特に力を入れて学んでいる病気とは

病気ではなく症候になりますが、個人的には着衣失行という症候の研究に特に力をいれております。着衣失行とは、服の着方が分かっているのに、手足の動きや感覚の障害から予想される程度を大きく超えて、服を着ることができない、という症候です。このような症状をお持ちの方がいらっしゃいましたら、当科へご紹介頂けますと大変ありがたく思います。

#### Q：医師として大事にしている事

他の医療スタッフとの連携です。医師1人の能力がいくら高くとも、他のスタッフとの連携が上手いかなければ医療の質も量も確保できません。一方で薬を増やし、一方で薬を減らすようなことをしては、時間ばかりが過ぎていきます。他のスタッフへの相談や指示、他医師への紹介は、情報が出来る限り明確に伝わるように心がけて行なっております。

#### Q：プライベートで夢中になっているものがあれば

歯を磨きながら見るYouTubeの大喜利動画。

